

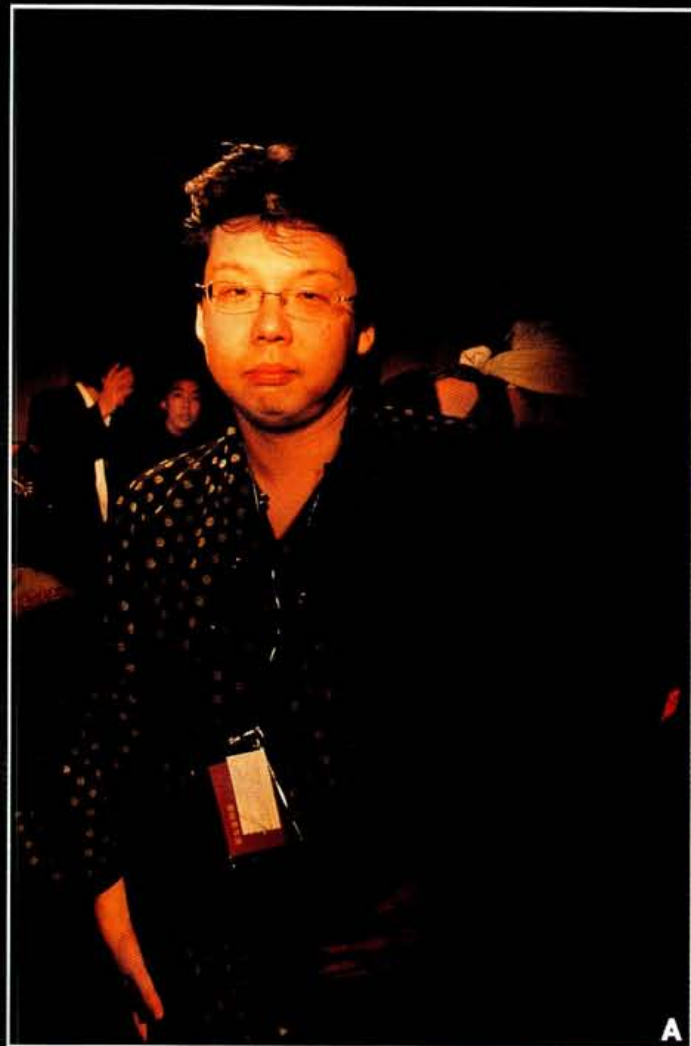
YUKATA Jack @WORLD [世界]

和装振興の一環となるイベントと聞けば、重々しいだろうと誰もが考える。主催が「西陣帯地青年会」、西陣織元の後継者で構成される組織だと聞けばなお思う。ところが何というか、重たい感じがしないイベントなのだ。

「50~60歳世代が主催するイベントと、20~30歳代のイベントは違うということ。僕らは無理して和服を着て下さいとは叫びません(笑)」と同会の副幹事長・安田建太郎さん。

「YUKATA Jack」と言っても、そもそも浴衣と彼らの生業は直結はしない。企画費も青年会の予算、身銭を切って、門外の浴衣をモチーフにイベントを打つ。そこに「次の世代のトライアル」を見る。ただでさえ「水着と浴衣は毎年新調する」という若年層が増加する昨今である。「横を通った着物姿の人が格好いいと思ったら、自然に和装に興味を持ってもらえるはずですから」。木屋町のクラブではしゃぐ姿を見て鼻白む人もいよう。だが伝統を後進に残すには、そんな姿勢も必要なのかもしれない。

A. 安田建太郎さん。何故に木屋町でイベントを? 「昔木屋町でDJしてたので(笑)。コネクションが使えるのも世代ならでは。「木屋町で遊ぶだけでは何ですから(笑)」と、屋には外国人留学生に浴衣の無料レンタルと着付け、お琴やお茶のお点前なども組み込んだ **B.** キッチリ宮川町から舞妓さんを招聘するあたりは、さすが「旦那衆予備軍」。WORLD [世界]のエアコン前で涼しげな舞妓・里あいサンと里なみサン。思えば彼女らも和装のエキスパートである **C.** イベント内のコンテストで「Best fit Man賞」を獲った中本さんは帯職人さん。獲って当たり前? 「そんなことないですっ」。この爽やかな謙虚さが受賞理由か **D.** 一方、浴衣クイーン「Woman賞」を獲ったのは、さちこんぐサン。和装を着る機会が多いらしいが、受賞の決め手となったパフォーマンスはここでは書けません… **E.** リサ・サンデルさん(右)とヘザー・マコレディさん。初浴衣のインプレッションは? 「Mm…、tight(キツイ)」とヘザーさんは笑っていたが、ちゃっかり「Best Character賞」を獲った **F.** 留学生組のカップルザビエ・ロビタイさん(右)とエマ・サンデルさん。エマさんはリサさんのお姉さん。それぞれ京大と京都工繊大に留学中。優秀なんですね…。日本語も流暢だし



和装業について、大上段に構えて旧きだけを叫ばない。
次世代の担い手は、木屋町育ちだったりするからね。

